

いずみのひろば

2015年9月号
日本基督教団 堺教会
No.440 教会学校



「五つのパンと二匹の魚」ヨハネ六章十一節

ユダヤのお祭りの「過越の祭り」が近づいていました。ガリラヤ湖の周りには、過越の祭りのために、エルサレムに向かう人々がたくさん集まっています。ガリラヤ湖は、大きな湖です。夏期聖書学校で日高へ行ったり、海で泳いできましたね。浅い所や深い所があったり、波がザブンと押し寄せてきたりしましたね。このガリラヤ湖も海のように大きな湖なので、イエスさまは、船で向こう岸に渡って弟子たちと一緒に山の上で静かにお祈りしようと思われました。

ところが、イエスさまがベトザタの池で三十八年間も病氣だった人を治されたことや役人の今にも死にそうだった息子を生かされたことを役人、聞いたたりした大勢の人達が、イエスさまのお話を聞こうと後を追って山へ集まってきました。

数え切れないほどの人たちです。若い男の人、おじさん、おばあさんや若い女の子、おじいさんや若い女の子、赤ちゃんを抱っこしているお母さんもいます。みなさんのような子どもたちもたくさんいます。みんなイエスさまを目指して、フウフウ言いながら山を登ってきます。イエスさまは、その様子を見られて、弟子のフイリポにたずねました。「この人達に食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか。」



そこに、もう一人の弟子のアンデレが、一人の少年を連れてきました。

「この子は、自分のお弁当をイエスさまに差し上げた」と言っています。五つのパンと二匹の魚では、何の役にも立ちませんね。」と言いました。

ところが、イエスさまは、「ありがたう」とそのお弁当を少年からうけとると、みんなを晩ご飯の時のように座らせました。草の上にみんなが座っています。百人以上、二百人以上、三百人以上、五百人以上、千人以上、イエスさまは、パンだけでも五千人いました。

イエスさまは、パンと魚を持って、天の父に食べる前のお祈りをしました。それから、パンをさき、魚もさいて弟子たちに渡し、座っている人達が順番に食べていきました。

いつ、足りなくなるかを見ていても、なくなるはずのパンも、魚もなくなりません。

それどころか、みんながおなかいっぱい食べた後に、残ったパンを集めると、十二のかごいっぱいになりました。

これが、イエスさまがくださった命のパンです。イエスさまのくださった永遠の命です。命は、死んだらなくなるよ、終わりだと思っていたら、そうじゃありません。イエスさまを信じて、頂く永遠の命は、なくなりません。死んでも死なない永遠の命は、人からもらうことはできないし、お金で買うこともできません。だから、イエスさまは、あなたのために来られたのです。あなたに死んでも死なない永遠の命をあげようと手を広げて待ってられます。教会は、イエスさまの救いについて、いつもみんなにお話しているのです。



(おほなし 米澤佳世子先生)